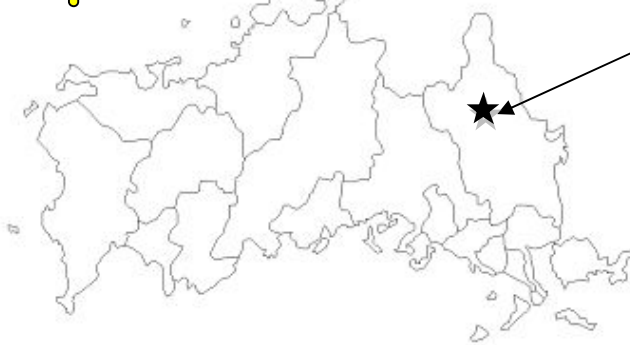


集落協定 かわら版 (第43号)

(平成26年8月21日 山口県農業振興課)

平成25年度の新規締結協定をご紹介します！



〈波野集落協定〉

- 面積 4.2ha
- 急傾斜 4.2ha
- 参加者 農業者14人
- 交付金 874千円
- 共同取組活動 40%

今回は、岩国市本郷町波野にある波野集落協定にお邪魔しました。

アイガモたちが大活躍！

・ ・ 岩国市波野 (はの)
集落協定 ・ ・



《取材風景》

今回は、岩国市本郷町にある波野集落協定にお邪魔しました。当協定は、本郷町の波野地区に位置しています。

本日は、協定代表の中本さん(68歳)、会計担当の竹中さん(71歳)、書記担当の隅さん(35歳)の3名の方にお話を聞きました。

●協定の概要について教えてください

当協定は、参加者が農業者14名です。急傾斜地で主な作物は米で、その他、施設野菜などです。

平成25年から新たに設立して制度に取り組むこととなりました。設立してまだ1年ぐらいですよ。

●第3期の途中から取り組もうとしたきっかけは？

イノシシの防護柵の設置に関する取り組みを国の事業を活用する際に、地元でまとまったのがきっかけです。

それまで制度があることは知っていたのですが、やりきることができるか心配で取り組んできませんでした。

こうした集まりをきっかけにして、市役所の担当の方の後押しもあって、制度に取り組むこととしました。



《協定風景》

●イノシシ被害はひどかったのですか。

それまでは個人で対応していたので、どうしても防ぐことができませんでした。

しかし、協定農用地をぐるりと一面を防護柵で囲んだおかげで、被害はなくなりました。

今は、この設置した防護柵の維持管理に当制度を利用していますよ。



《設置された防護柵》

●共同取組活動の内容は？

防護柵の管理の他、草刈りや農道の舗装にも取り組んでいます。また、景

観作物でレンゲを植えています。でも、やっぱり特徴的なのは、アイガモ農法ですかね・・・。

●アイガモ農法ですか？

隅さんのところの田んぼですけれども、40匹ぐらいのアイガモを田んぼに放して害虫駆除をしています。草取り不要で、肥料不要です。



《お仕事中のアイガモたち》

●苦労はありましたか？

アイガモたちが襲われました。“カラス”に狙われないよう田に糸を張り巡らせ、また、“イタチ”や“テン”などの小動物が田に入らないようにトタンを設置したりと大変でした。



《田に張り巡らされた糸》

●なぜ、アイガモ農法を始めたのですか？

アイガモ農法は僕（隅さん）の父親が始めました。僕の計画の中には入っていないくて・・・。

アイガモの後処理も大変で、また、意外とエサ代もかかりますし、採算が・・・(笑)。

でも、完全無農薬の美味しいお米を頑張って作っていますよ！



《人が近付くと寄ってくる》

●集落や協定の後継者は？

当協定は、本郷地区では担い手がいる方ではないかと思えます。隅さんが、この集落へ来てくれて本当に助かっています。

隅さんは認定農業者で、本郷の中で1.5ha ぐらいを耕作しています。貢献は大きいですよ！

●なぜ、波野へ来たのですか？

僕（隅さん）は美川町出身なのですが、地元で希望している農地が無かったので、市を通じて農地を探してもらいました。

今は本郷に住んでますが、当時は実家から通勤ができる範囲で探していました。

●他の地域の人が集落へやってくることへの抵抗感はあるか？

抵抗感はありませんでした。「隅さんが田んぼ貸してくれんか」と話があったとき、一つ返事で「ええよ」と。

●ところで、集落協定の代表者はどうやって決まったのですか？

自分（中本さん）が最初に皆に声をかけたので・・・(笑)。でも、集落のまとまりは良いですよ。皆、忙しい中、よく協力してくれます。



《集落協定の代表者》

●今後の抱負を聞かせてください

スタートしたばかりの協定です。これからの集落の話し合いの中でしっかりと今後を考えていきたいですね。

また、農地がこれからもずっと守られるよう、制度を利用してしっかり取り組んでいきます。

～岩国市担当者の声～

波野地区は、毎年イノシシによる被害で悩まされていた地区でした。

そこで、平成 24 年度に鳥獣被害防止総合対策事業交付金（国庫事業）を活用した 1,559m の防護柵の設置に取り組んだことをきっかけに、現代表者の中本氏が代表者となり、平成 25 年度より「波野集落協定」として協定を締結されました。

協定農用地をくると防護柵で囲まれ草刈等の農地管理が行き届いた当地区は他の集落協定の模範となるのは間違いないと考えています。

協定参加者の中には、人・農地プランの中心経営体に位置づけられている認定農業者が妻と家族協定の締結をして、施設野菜を主体に、夏秋野菜と地域の特産であるワサビを組み合わせた複合経営を行うことで、周年栽培を行い安定した所得確保を図っている方もいらっしゃいます。

また、その方のお父様が「アイガモ農法」を取り入れ、農薬の代わりに、水田にアイガモを放して雑草取りや害虫退治をさせる、人と自然にやさしい農法にも取り組んでいます。アイガモを放す前には田んぼの周りに小動物の侵入を防ぐネットやトタンの設置など一苦労も二苦労もありますが、安全でクリーンなお米が収穫できることが、楽しく生きがいみたいです（笑）。

この他にも、日本でもめずらしい楮（和紙の原料）の神様を祭った楮祖神社に向かう参道を兼ねた農道を氏子と共に管理するなど、中山間地域等直接支払い制度を上手く活用し、農地の管理だけでなく地域住民と積極的に交流する協定となっています。

今年度は、新たに協定に 1 名の仲間も増え、多面的機能支払にも取り組む予定にしているなど、益々発展的な活動を継続したい意向もありますので、我々行政としても、より一層、積極的に支援していきたいと考えています。

★★★★★ 編集後記 ★★★★★

アイガモ農法で、完全無農薬の安心・安全なお米を作っている姿に感動しました。アイガモたちも一生懸命仕事をしていましたよ。

こうした取り組みがもっと広がって、波野集落がさらに活性化していくことを期待しています。

取材では大変お世話になり、どうもありがとうございました。

★★★★★ お知らせ ★★★★★

集落協定かわら版バックナンバー
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17300/chokushi/otasuke.html>

山口県農業振興課：政岡

電話：083-933-3375

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★